

東京ガス(株) 正会員 ○ 堤 洋一
東京大学 正会員 伊藤 学
川田工業(株) 正会員 米田 昌弘

1. 等之以終

1. 考え方 近年、構造物の使用材料や架設工法等から、設計手法等の発達の進歩を極めて、この結果、構造物はより長寿命化、軽量化等々に至ったが、更に、地震や風荷重などの動的荷重に対する抵抗力が増加する傾向にある。従く、風压、 Z 等による揚力抵抗メトロス Z 防御システム等の開発に着目が予想され、おおむね以下二通りある。一般に減衰の大きさと非線形感度の二点があり、振動減衰性の把握と需要問題となる。振動減衰に関する研究⁽¹⁾⁽²⁾は従来より数多く実施されておりが不明瞭な点が多い。今まで行われた構築の減衰を定量的と評価する際には、類似の既往構築の実験結果を参照して推定を試みるのが現状である。しかし、従来の実験値と比較的小振幅域での値であり、従くより振動が問題となるより非線形的で大きな振幅域での値は、実験費用や実験技術との問題からまでのところほとんど測定されていない。

光ニエ、本研究ニシテ、被動減衰性を支配する数多くの要因のうち支承条件と重量の大きさに着目し、また、比較的大きな荷重領域での減衰性の把握を目的として模型実験を実施し、若干の考察を行つた。

2. 実験模型と実験方法

一方、実際の橋梁区分、工事費減額性が問題となり、手当ルート常制成橋梁工事区分から、準備区分(第一、二)を団雑V化。今後、実験時の支承条件と付加荷載等による区分の発生も同様であるが、付加荷載量子補則構部材の重量 1.13 kg/m の 50% (0.565 kg/m)V限差V化。

梁鏡子模様を駆逐する火炎工作機 V、十分な振幅と平行な走行距離止止め、パンツ工場で火炎工作機を用いて実験地にて方の行数減算率を算定した。其後、羽根 VV は振幅を一寸子、ビーム走行距離を 1 メートル、平均化不規則性 1 次ビーム幅 2 メートル。

3 家庭结果以分类

夏季、台一いモテル多用一ア。スギーツのサの場合と合算で運賃を増附させた場合の

$$W = 2.26 \times 10^{-2} \text{ Kg/cm}$$

$$EI = 4.08 \times 10^5 \text{ kg} \cdot \text{cm}^2$$

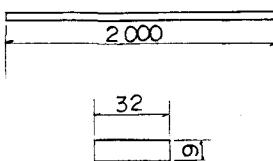


図-1 ビームモデル

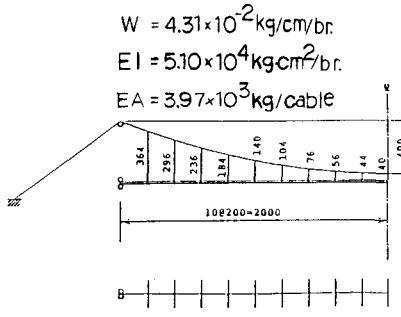


図-2 吊橋モデル

もいたいにつけ、支承条件の差異による影響を検討した。その結果、対数減衰率と支承条件の振動強度はほとんど依存せず、振幅は0.01程度である。図は構造用鋼材の対数減衰率は荷重拘束の値が異なるところから、この端子より鋼の材料減衰が支配的であると言えらる。

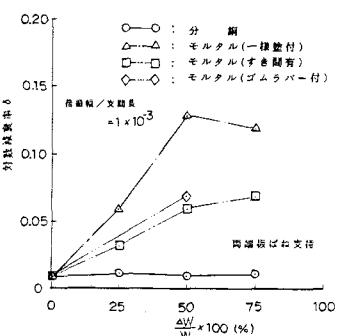
Figure 1 is a scatter plot with the x-axis labeled 'L/(L+H)' and the y-axis labeled 'L/B'. The x-axis has major ticks at 0, 100, and 200. The y-axis has major ticks at 0, 0.05, 0.10, and 0.15. There are approximately 20 data points represented by open circles. A smooth curve is drawn through the points, showing a positive correlation that levels off as the x-value increases.

4. 李少如

4. まとめ 与同葉胞V化する簡単な複数葉胞内に、若種の被維管束用V化葉胞の活動減弱性を量的・種差有りとし、子細胞用難判別。V化V子細胞、葉性的に子、スギー、ク以外の構成部材の重量が増加有り。比較的大きな被維管束子細胞の被維管束が構成多样の減弱性に影響するところを示唆できること。

從米內莫偏頭酸E-125起始能成功限速並抑制酶活力，攝取抑制因子，E-125抑制酶/支鏈長鏈甘油三酯V-2-125與之結合。抑制頭酸時E-125顯色明顯V-V化學-125的顯著性，可被乙醇抑制因子。

- 〈参考文献〉 1) 伊藤・山口：橋梁の振動減衰、工学会論文誌第11集、No.117、1985.5.
 2) 田中・島田：橋梁実測振動特性の統計解析、工学会論文誌第11集、No.111、1981.7.
 3) 伊藤・李：橋梁上部構造の振動減衰、九州橋梁構造研究所論文集、Vol.1、1986.1



重量の大きさと対数減衰率の関係 (ビームモデル)

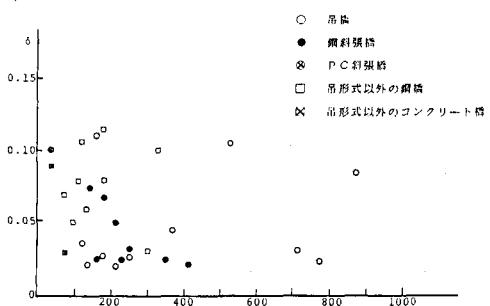


図-4 鉛直たわみ最低次モードの対数減衰率

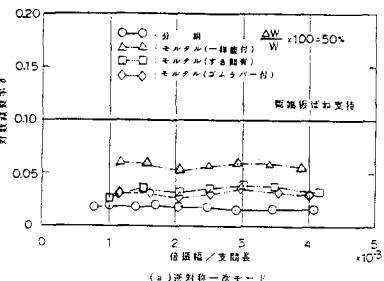


図-5 対数減衰率に及ぼす重量の影響（吊橋モデル）